



米海軍報道発表

在日米海軍司令部

広報・報道部

(046) 816-7615

For Immediate Release

Release # R-21-08

2021年6月22日

誘導ミサイル駆逐艦マスティン、15年の前方展開を称え横須賀を後に

第70任務部隊 広報部

横須賀—誘導ミサイル駆逐艦マスティンは、15年にわたる第7艦隊への前方展開を経て、6月22日、米海軍横須賀基地から出港しました。

この後、マスティンは定期整備を行うサンディエゴへ向かいます。

米海軍最大の前方展開駆逐隊であり、第7艦隊の主要な水上戦力である第71任務部隊・第15駆逐隊に所属していた間、マスティンはインド太平洋で運用を行ってきました。

マスティンは2006年7月横須賀に到着、前方展開戦力として配備されている間に、インド太平洋地域で複数の人道支援活動に参加しました。2008年、エセックス揚陸即応群の一員としてサイクロン・ナギリスで被災したミャンマーに支援を提供。2011年には、東日本大震災・津波、台風ハイエンの被災地への災害救援活動に参加し、人道保護作戦従軍章を受章。同年、洪水で被災したタイ政府からの要請により上空からの捜索・調査支援を提供しました。

新型コロナウイルス感染が世界規模で拡大の兆しを見せていた時期、マスティンは感染予防措置を講じながら、艦船航空要員統合訓練、水上戦先進戦術訓練、航行の自由作戦、空母ロナルド・レーガンならびに空母ニッツとの空母打撃群作戦運用など、成功裏に完了した数多くの演習や作戦に参加しました。

今年、マスティンでは司令官交代式が行われ、トッド・ペンロッド中佐に代わり、ロバート J.ブリッグス中佐が新艦長に就任しました。

「艦長として、私は絶えず一人一人の乗組員たちを最も誇りに思っており、一生恩義を感じることでしょう。なぜなら諸君の集団行動なしにこの艦を洋上で運用することは不可能だったのですから」と、交代式で語ったベンロッド中佐。「諸君はその優れた技量を持って数多くの困難に挑み、勝算の有無にかかわらず、マスティンのモットーである『常に勇敢であれ！』さながらに首尾よく困難を乗り越えてきました」

マスティンは第7艦隊の一員として地域全域に安全と安定を提供し、オーストラリア、インド、日本、タイをはじめとする同盟国やパートナー国との地域内での協働強化に寄与してきました。

2003年7月26日に就役したマスティンは、第2次世界大戦で13の従軍星章を受章したヘンリー C. マスティン大佐の名を冠した初の米艦船です。マスティン大佐は、しばしば「海軍航空の父」と称されています。彼の息子ロイド M. マスティン中將は、第2次世界大戦下ガダルカナルの戦いの際、軽巡洋艦アトランタに乗艦し任務に就いていました。ロイド・マスティン中將の息子、ハンク C. マスティン中將とトーマス M. マスティン少佐は、ともにベトナム戦争に従軍した退役軍人です。ハンク・マスティン中將の孫、ロイド・リンク・マスティン少佐は現在米海軍で任務に就いています。

誘導ミサイル駆逐艦マスティンは帰国後、インド太平洋における海軍戦力を率いる第3艦隊に所属する予定です。第3艦隊は、効率的な地球規模の海軍に必要とされる現実的かつ関連性のある訓練を提供しています。

第3艦隊は第7艦隊と互いに補完し合い、太平洋における軍運用の各領域で、指揮官たちに有能かつ即応性のあるアセットを提供するため、絶えず協働しています。

(上記の日本語文書は参考のための仮翻訳で、正文は英語です)

-米海軍-